これからのがんチーム医療に期待される薬剤師の教育
－医学部の立場から－

順天堂大学大学院臨床薬理学・佐瀬　一洋

世界に先駆けて高齢化社会を迎える我が国では、がんの克服が大きな課題であり、診療・教育・研究で医師・薬剤師・看護師等がチーム医療を実践する必要がある。

文部科学省は、大学改革推進等補助金事業として「がんプロフェッショナル養成プラン」を推進し、質の高い専門職を養成しうるプログラムにより大学の教育の活性化を推進するとともに、今後のがん医療を担う医療陣の養成推進を図っている。

順天堂大学では、学是「仁」（人を慮る心、慈しむ心）に基づき、がん患者の視点に立った、裾野の広い、且つ高い品性のあるがん医療を目指し、「がん生涯教育センター」を創設した。附属 6 病院（計 3,199 床）に加え、国立がんセンター、静岡県立静岡がんセンター、癌研有明病院、東京都立駒込病院と連携し、教育研究・診療環境を整備するとともに、コメディカル養成についても東京理科大学、明治薬科大学、立教大学と共同で「実践的・横断的がん生涯教育センターの創設」プログラムを開始し、連携 3 大学院との協力を強化し、「がん生涯教育センター」を共有する。

また、厚生労働省では、医師不足、混合診療、病院の再編、在宅医療の推進など、医療に関する様々な問題に対し、将来を見据えた改革を図るために「安心と希望の医療確保ビジョン」（http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/06/s0618-8.html）を策定し、職種間の協働・チーム医療の充実を求めている。

順天堂医院でも、医薬分業の本質を理解し、保険薬局 vs 病院薬剤師といった構図を描くのではなく、病院薬剤師が「医療安全と EBM を核としてチーム医療に貢献」すべく、がん化学療法や緩和ケアへの参加、病棟等での薬剤管理、医師・看護師と患者・家族をつなぐ服薬指導、薬事委員会・治験審査委員会・レジメン管理委員会等の事務局業務を実践することで、人材育成や資質向上等を図っている。

これからのがんチーム医療に期待される薬剤師の教育について、医学部の立場からは、がんプロフェッショナル養成プラン等を活用し、臨床的ニーズを的確に把握しつつ、危機管理やエビデンス作りなど、プロフェッショナルという立場でチームに貢献する人材を、卒前・卒後・生涯教育として継続的に養成できる体制づくりを期待したい。